小学校英語教育の推進

1　はじめに

未だコロナ感染の完全終息が見えない中、感染法上の位置づけを季節性インフルエンザ等と同じ扱いとする方針が示された。それに伴い、様々な行動制限をはじめ感染防止対策等も徐々に緩和され、本格的な「With Corona」時代へ移行した。学校現場でも、必要な感染防止対策を図りつつも、マスク着用が個人の判断に委ねられるなど、少しずつコロナ以前の学校生活に戻る動きが見えてきた。

令和２年(2020 年)４月に小学 5, 6 年生で外国語（英語）が教科化となり早３年が経過した。まさに、コロナの感染拡大とともに歩んだ３年であった。この間、国の GIGA スクール構想の実現に向けた取組が一気に加速し、子どもたち一人一人にタブレットが行き渡り、オンライン授業やリモートによる授業等が実施されるようになり、従来の授業形態にはない新たな授業スタイルとして定着した。この先、令和６年(2024 年)には、小学５年生から中学３年生での英語授業でデジタル教科書が先行導入され、順次他教科へと拡大される予定である。今後は、ますます「With Corona」時代の授業づくりに Digital Contents の活用が求められることとなる。このような急速な学習環境の変化に対応しながら、今年度は授業づくりの基本となる「めたふ」の実践に重点をおいた授業づくりを推進してきた。特に、「(た) 探究的な学習の充実」を図る上でも、こうした Digital Contents の活用が今後さらに広がり、研究や研修のさらなる充実が重要となっていくだろう。

本研究紀要では、今年度の学校訪問（授業参観）で明らかになった課題を整理するとともに課題を克服するための手がかりとして提示した資料等を再度掲載し、本年度のまとめとする。

2　現状と課題について

学校訪問における授業参観の評価観点は、①楽しい雰囲気（テンポとリズム）の授業づくりができている、②本時のめあて(Today's Goal)がしっかり提示されている、③探究的な学習となるような工夫や活動のつながりがある、④「振り返りシート」を活用した授業の振り返りができている、⑤積極的に Classroom English が使われている、⑥ALT との協働授業ができている　の６点である。特に、学級担任が行う授業では、以下の３点で課題がみられたため、授業づくりの具体的手立てとして資料①～③を提示した。

(1)「めたふ」を意識した授業づくり

各授業における「本時のめあて(Today's Goal)」の提示は、授業者の意識も比較的高く、しっかりと提示され、定着度合も高まっている。具体的な「めあて」を口頭で提示するとともに板書して可視化することで、児童にとってスムーズに意識化が図れるようになった。ただ、1時間（本時）の授業を通じ、「何を学ばせるのか」「何を身につけさせるのか」や「何ができるようになるのか」などをより明確にし、具体的に提示していくことが必要である。また、「振り返り」については、時間的な確保がしっかりとできていないケースや「振り返り」そのものがなく授業が終了してしまうケースも見られた。また、「振り返りシート」の活用は、ほぼ定着しつつあるが、内容の点検や見直しが必要なものも見られた。授業者自身の授業の「振り返り」に対する意識をあらためて問い直すとともに、「振り返り」で完結する授業づくりのために、今一度「振り返り」から指導案を作成するなどの試みも必要である。

→　<u>資料①：「授業はじめと終わりのﾍﾞｰｼｯｸ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ」</u>

（２）積極的な classroom English の使用

学級担任が授業者(JTE)として授業を行う場合、classroom English の使用頻度が低くなる。授業者が自身の英語力に自信を持ち切れないことが大きな要因の一つであることは明らかである。英語の教科化が決まり、学級担任が中心になって授業を行うという方向性が示された当初より、こうした授業者の英語力への不安は顕著に表れており、今もその不安を払拭できていない。英語力を高めるという課題は、一朝一夕に解決できる課題ではない。また、授業者個々の自助努力だけに委ねられるべきものでもない。しっかりとした研修システム等を確立した上で、組織的に取り組まなければならない課題である。英語を教える授業者にとって、基礎的な英語力は必要な能力のひとつではあるが、決して流暢な英語を使いこなさなければならないということではない。むしろ、得意とは言えない英語を、授業者として積極的に使って授業を進める姿を児童に見せることによって、一生懸命に授業者の英語を聞こうとする態度を引き出したり、失敗を恐れず英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を培ったりでき、その姿が児童のよきモデルとなる。文部科学省作成の小学校外国語活動・外国語「研修ガイドブック（実習編）」には、たくさんの使える classroom English が収められている。この中から、さらに内容を精選し、授業の様々な場面に応じて、より使いやすく活用できるよう資料②としてまとめた。「習うより慣れよ」、明日からの授業での実践につながることを期待している。

→　資料②：「Special Choices for Classroom English」

（３）ALT との協働授業（Team Teaching）の実践

ALT を有効に活用するためには、ALT との日常的なコミュニケーションは必要不可欠である。Teaching Plan を作成するにあたり、本時のめあて(Today’s Goal)を達成するためには、どの場面で、どのように ALT の出番を仕組むのか、役割分担を明確にして授業づくりを行うことが大切である。しかし、現状における ALT との TT 授業では、コミュニケーション不足により、スムーズな授業の流れが確立されていないケースが目立つ。コミュニケーション不足の主な原因は、①授業者(JTE)自身の英語力の不安、②打ち合わせ時間の確保　であると考えられる。ALT とのコミュニケーションをより円滑に行うためには英語力は大切であるが、完璧な英語力は必要ない。コミュニケーション力（＝人と関わる力）こそが必要不可欠な要素である。ことばの壁は決して乗り越えられない壁ではなく、「互いのことをもっと知りたい」「もっと楽しい授業にしたい」など、こうした授業者の思いこそがその壁を乗り越える力となる。ALT との打ち合わせ時間の確保といった課題は、学校全体で創意工夫を凝らした取組も必要であるが、契約条件の変更等、側面的な課題解決も必要である。

→　資料③：「よりよい T.T の実践に向けて」

３　おわりに

小学校英語教育推進員として、３年間の学校訪問（授業参観、指導訪問）を通じ、多くの心躍る授業や魅力的な先生方と出会うことができた。また、昨年度取り組んだ授業動画の配信では、専科指導教員をはじめ学級担任の先生方に授業提供をしていただき、情報を発信することができた。一方で、授業づくりの課題として「振り返り」の充実やＡＬＴの有効活用等の課題が残る。今後の本市の英語教育の推進と英語授業の充実のために改善しなければならない重要な課題である。今一度、課題認識を新たにし、取り組むことが大切である。

資料Ⅰ

小学校英語　授業はじめと終わりのﾍﾞｰｼｯｸ・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ(Basic Standard)

Start

導　入　Warming up を兼ねた Communication Time　（導入・展開・・・約１０分間）

①Opening Greet（はじめの挨拶）　student leader が中心になり英語で挨拶を交わす。
S: Good morning(afternoon). / Hello.
S: Let's start English Class.

②"How are you?" Interview　ALT(JTE)が体調や気分を英語でたずねる。
T: How are you?　S: I'm fine.
※全体→個へインタビューする。

③Daily Question　ALT(JTE)が日付、曜日、天気について質問する。
T: What day is it today?　S: It's Monday.
T: What's the date today?　S: It's April 8th.
How's the weather today?　S: It's sunny.

④Q and A (Small Talk)　タイムリーな話題について、英語の質問に答える。
T: What did you eat for dinner last night?
S: I ate omelet. It was delicious.
T: Did you watch the Major League Baseball game?
T: Where did you go yesterday?
T: What did you do last Sunday?　など

展　開　特別支援教育の視点から、口頭で確認するとともに板書して提示

⑤Today's Menu（本時の流れ）　「本時の流れ」の確認

⑥Today's Goal（本時のめあて）　「本時のめあて」の確認
本時の授業で、何ができるようになるかを具体的に示す。
（例）好きな食べ物について、英語で友たちにたずねたり、答えたりすることができる。

⑦(Small Talk)　AlT と JTE による本時の授業につながる Small Talk を行う。

Main Activity　（約３０分間）

まとめ　授業のふり返りと次時への意欲付け　（まとめ・・・約５分間）

⑧Reflection Time（振り返り）　「振り返りシート(reflection sheet)」を使い、授業のふり返りを行い、交流する。
※２～３人に発表させ、全体で共有する。

⑨Closing Greet(終わりの挨拶)　student leader が中心になり英語で挨拶を交わす。

Finish

英語授業のスタンダードとして定着させましょう。（継続は力なり）

資料２

Special choices for classroom English

～クラスルーム・イングリッシュを駆使して、楽しい授業づくり～

１．使用時のポイント

①ゆっくり(slowly)、はっきり(clearly)、やや大げさに(over action)言う。
②簡単・簡潔な文 (one phrase) で伝える。
③繰り返し、連呼(again and again)して使う。
④動作を交えて(gesture)行う。

２．授業場面での classroom English

導入(Opening)

①授業はじめの指示　　落ち着いた雰囲気で授業をスタートさせましょう。
多少騒がしくても、笑顔を忘れず・・・。(**smile!**)

□席に着こう。	Go back to your seat.
□準備はいい？	Are you ready? / Are you OK?
□静かにしよう。	Be quiet.
□先生の方を見よう。	Look at me.
□立とう。	Stand up.
□座ろう。	Sit down.

②あいさつなど

□おはよう。	Good morning.
□こんにちは。	Good afternoon. / Hello.
□英語の時間だよ。	It’s time for English class.

③Daily Question として

□元気？調子はどう？	How are you (today)?	
□今日は何曜日？	What day is it today?	It’s Friday.
□今日は何月何日？	What’s the date today?	It’s April 8th.
□今日の天気は？	How’s the weather today?	It’s sunny.

展開(Activities)

④「本時のめあて」「授業の流れ」の提示

□今日のめあて（目標）だよ。	This is today’s goal.
□みんなで読もう。	Let’s read (the goal) together.
□今日の授業の流れだよ。	This is today’s plan / schedule.

⑤活動いろいろ

■Starting Activities（授業はじめの活動）

□教科書を開けよう。	Open your textbook (to page ～).
□歌を歌おう。	Let’s sing a song. **【Let’s Sing】**
□もっと大きな声で。	More loudly. / Big voice, please.
□もう一度歌おう。	Let’s sing again.

☐チャンツを練習しよう。　Let’s practice a chant.【**Let’s Chant**】
☐繰り返そう。　Let’s try again.

■Listening Activities（聞く活動）

☐CDを聞こう。　Let’s listen to the CD.
☐しっかり聞きなさい。　Listen carefully.
☐よく聞こえる？　Can you hear (the CD) clearly?
☐動画を観よう。　Let’s watch movies.
☐しっかり観なさい。　Watch carefully.

■Reading Activities（読む活動）

☐お話を読もう。　Let’s read a story.
☐一緒に読もう。　Let’s read together.
☐お話は楽しめた？　Did you enjoy the story?

■Writing Activities（書く活動）

☐鉛筆を出しなさい。　Take out your pencil.
☐「A」を書きなさい。　Write the letter “A”.
☐丁寧に書きなさい。　Write carefully.
☐ﾜｰｸｼｰﾄに単語を書きなさい。　Write the word on your worksheet.
☐鉛筆を置きなさい。　Put your pencil down.

⑥活動中の指示

☐黒板を見なさい。　Look at the blackboard.
☐こっちに来なさい。　Come here.
☐ペアになりなさい。　Make pairs.
☐(5人)グループを作りなさい。Make groups (of five).
☐４チームに分かれなさい。　Make four teams.
☐円になりなさい。　Make a circle.
☐相手をかえなさい。　Change partners.
☐役割を交替しなさい。　Switch / Change roles.
☐誰かやりたい人はいる？　Any volunteers?
☐ヒントを３つ出すよ。　I’ll give you three hints.
☐質問ある？　Do you have any questions?
☐他に質問ある？　Any other questions?
☐終わりです。　Time is up. / Finished.
☐やめなさい。　Stop now.

結び(closing)

⑦「振り返り」の時間

☐授業の振り返りをしよう。　Let’s review today’s class.
☐振り返りシートを出そう。　Take out your *furikaeri* ／ reflection sheet.
☐授業は楽しかった？　Did you enjoy today’s class?
☐今日はこれで終わりだよ。　That’s all for today.
☐さよなら。　Goodbye.
☐またね。　See you (on Monday / next week / next time).

3．「ほめ方」あれこれ　～自信を与えるclassroom English～

□正解です。	That’s right!
□よくできたね。	Good! / Great! / Good job! / Well done!
□いい考えだね。	Good idea!
□素晴らしいね。	Wonderful! / Excellent! / Fantastic! / Super! Perfect! / Nice!
□よく頑張った。	You did a good job.
□おめでとう。	Congratulations!
□（手伝い）ありがとう。	Thank you (for your help).

4．「励まし方」あれこれ　～勇気を与えるclassroom English～

□あきらめないで。	Don’t give up.
□心配しないで。	Don’t worry.
□恥ずかしがらないで。	Don’t be shy.
□よくやった。	Nice try!
□惜しい。	Close! / Almost!
□もう一度やってごらん。	Try it again.
□頑張って。	Good luck! / Do your best!
□落ち着いて。	Take it easy. / Relax.
□その調子。	Keep it up!
□あなたならできる。	You can do it.

5．簡単便利な指示表現　～習うより慣れよう！～

□手伝ってくれる？	Can you help me?
□手伝おうか？	May I help you?
□もう一度言って。	Pardon (me)?
□大きな声で話して。	Speak more loudly / slowly / clearly.
□後について繰り返して。	Repeat after me / ALT.
□手をあげなさい。	Raise your hands.
□手をおろしなさい。	Put your hands down.
□静かにしてください。	Be quiet.
□話をやめなさい。	Stop talking.
□説明してください。	Please explain it.
□私もそう思う。	I think so, too.
□私はそう思わない。	I don’t think so.
□あと１分です。	One minute left.
□もう１分延長します。	I’ll give you one more minute.
□練習しましょう。	Let’s practice.

Practice makes perfect!

資料３

よりよいT.T.（Team Teaching）の実践に向けて

～ALT(Assistant Language Teacher)との効果的な協働授業のあり方～

１．責任ある教育の実施のために

「英語のnative speakerだからよい指導者である」とは言えない。教員免許を持っていたり、母国で教員の経験があったりするALTはごくわずかである。小学校教育や児童心理学、発達心理学、学習障害などの専門的知識もないまま雇用される場合もあり、多くのALTは、教育の素人と考えるべきである。だから、授業においては、Assistant（助手）なのであり、授業者（担任等）がしっかりイニシアティブを取り授業を進めなければならない。

２．大切なのは、コミュニケーションへの姿勢

新学習指導要領では外国語の目標が、以下の通り示されている。

【外国語活動の目標】小学３，４年生

外国語によるコミュニケーションにおける見方･考え方を働かせ､外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することをめざす。

【外国語科の目標】小学５，６年生

外国語によるコミュニケーションにおける見方･考え方を働かせ､外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することをめざす。

外国語活動（外国語科）の目的は、英語のスキルを教えることではない。大切なのは、授業者（担任等）が子どもらの前でALTやGuest Speakerと英語を使ってコミュニケーションをとろうとする態度である。授業者は､「英語を教える」より「英語を使おうとするモデル」として、積極的に英語でコミュニケーションをとる姿勢を見せよう。

３．授業はじめの「あいさつ」は、コミュニケーション活動の第一歩

コミュニケーションの基本は､「しっかり相手を受け止めること」である。授業のスタートに行うコミュニケーション活動である「あいさつ」。授業者は、子どもの発話にしっかりリアクションをしよう。リアクションは、人間関係を深めるための大切なコミュニケーションのひとつである。子どもの発話を受け止め、ひと言返そう。

T: How are you?

S: I’m <u>fine</u>.（ sleepy / tired / hungry / happy / sad / hot / cold ）

T: Oh, you are fine. Good. ・・・ この一言が、相手を受け止めるということ。

※子どもの反応によっては、このあとWhy?などと続けていけばよい。

４．ALTが果たす大切な役割

前述のとおり､「外国語活動（外国語科)」には､「コミュニケーション能力の素地（基礎）を育てる」という目的がある。指導者に求められる本質は､「授業を盛り上げること」や「明るさやテンションの高さ」ではない。グローバル社会における英語には、母語話者だけとのコミュニケーションだけではなく、いろいろな言語や文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションツールとしての機能が期待されている。ALTとの触れ合いの中で最も大切なことは、「英語の手本を示してもらう」ことよりも､子どもたちが多様な文化や価値観に触れること、

英語を使っていろいろな国の Guest Speaker と「コミュニケーションをとる機会を持つ」ことである。

５．効果的な役割分担を考えよう

　小学校の外国語活動（外国語科）は、「ALT が英語で授業をしていればそれでよい」わけではない。ALT がいれば授業が成功するわけでもない。授業者（担任等）と ALT が巧みに役割分担し、たくさんの「理解できるインプット」を与え、意味のある情報のやり取りを行う活動を仕組むことが大切である。また、ALT は CD 代わりではなく、生きたことばを使用するモデルとして活躍できてこそやりがいを感じる。子どもたちと ALT の出会いを大切にし、その人の個性や文化的背景を生かした活用を考える必要がある。日本の教育のねらいを理解しようと努めるだけでなく、子どもたちのことを思い一生懸命取り組んでくれる ALT はたくさんいる。よりよい協働授業の実践のためには、ALT を同僚として受け止めることが重要である。お客様扱いにしてしまったり、反対にすべてを任せてしまったりしてはいけない。また、よく「ALT との打ち合わせの時間がない」という声を耳にするが、学校としてその時間を確保することが必要で、なによりもまずは ALT と人間関係を築くことが大切である。職員室内でのコミュニケーションが良好であれば、それは授業に反映され、子どもにもしっかり伝わる。

※参考：「小学校外国語活動　成功させる５５の秘訣（うまくいかないのには理由がある）」
関東学院大学大学院教授　金森　強　氏著

中学校特別活動の推進
―守山市生徒会サミットの活動―

第4回 守山市生徒会サミット

1 目 的

・守山市生徒会サミットの開催の意義について理解し、今後の活動に向けて意欲の向上を図る。

・各校からスマホに関する実践報告や活動交流を通して、守山市生徒会サミットとして市内全体で取り組むべき課題を明らかにする。

・課題解決に向けての方向性について合意形成を図る。

2 実施日時 令和4年6月4日（土） 場所：守山市立図書館 多目的室

3 参 加 者 市内各中学生 生徒会役員 33 人 守山市青少年育成市民会議 8人

市長・教育長など 9人 守山市 PTA 連絡協議会 4人

議会改革・広報広聴 1人 事務局 7人

計 62 人

4 実施概要

今回のサミットは、まず各校から日常の活動報告とともに、前年度から取り組んでいる「スマホに関する取組」の活動報告を行った。各校からの報告を受け、スマホに関する効果的な取組はどのようなものか、どこに課題があるのかなどを整理し、今後の活動方針を討議した。また、今回のサミットには、青少年育成市民会議の皆さんや守山市 PTA 連絡協議会の皆さんにもグループ討議に参加いただき、大人の目線や保護者の目線からも意見をいただき、和気あいあいとした雰囲気の中、活発な議論が行われた。

なお、サミットの後半からは教育長や市長にも参観いただき、閉会行事では激励の言葉もいただいた。子どもたちにとって、これからの活動意欲を高める、たいへん充実した時間となった。

5 今後の活動について

（1）「スマホに関する取組」をより広めていくために、動画を作成する。

（2） 動画については「With スマホ時代」「スマホと最高の関係を」のように、「禁止」という視点ではなく「スマホと共生」「スマホをうまく利用していく」という視点で作成する。
できれば、ユーチューブなどにアップする。

第5回守山市生徒会サミット

1 目 的

・スマホに関する課題を解決するために、守山市生徒会として学校全体や保護者に向けて啓発用動画制作をおこない、課題解決に向け活用方針を共有する。

・各校の生徒会活動を交流し学び合うことで、それぞれの学校で今後の活動に活かしていく。

・守山市生徒会サミットでの活動を振り返り、今後のより良い活動の方向性について検討する。

2 実施日時 令和4年 10 月 16 日（日） 場所：守山市民ホール 学習室、大ホール

3 参 加 者 市内各中学生 生徒会役員 35 人 守山市青少年育成市民会議 5人

教育長など 5人 事務局 9人

計 54 人

4 実施概要

　各校からの「活動報告」と「スマホに関する取組」の報告を行った。「活動報告」では、特色ある行事の紹介やその活動実践が、「スマホに関する取組」では、啓発動画や啓発CMの作成などの、工夫を凝らした取り組みが紹介された。

　各校からの報告を受け、今後の活動に活かすために活発に質疑が行われた。

　その後、会場を大ホールに移し、「スマホの啓発動画」のオープニングとエンディング用のビデオ撮りを行った。発想豊かなリーダーのもと、6中学校の生徒が協力して撮影を行った。今回のサミットに参加いただいた、青少年育成市民会議の皆さんにも、一部出演いただいた。

　最後は、学校ごとにこれまでの生徒会サミットを振り返り、今後の活動に期待することを話し合った。

5 今後の活動について

（1）今回撮影したオープニングとエンディングの動画を入れた啓発動画を完成させ、各校での取り組みに活用していく。

◇「後輩の皆さんへ」 3年生から後輩へのメッセージ

○生徒会サミットは、とてもいい場で他校との交流、意見交換ができたり、お互いの問題を解決し合えたり、私はすごく好きな雰囲気、時間でした。私たちの年代だからこそ「ひらめく」こと、「何々したらいいんじゃない！？」という感じを大切に、たくさんのアイディアで変えていってほしいと思いました。中学生での活動は終わってしまうけれど、これから先も貢献していきたいです。守山の中でもそれぞれ違う活動をしたりしているので、ぜひ参考にして、よりよい学校を築いてほしいですね。

第6回 守山市生徒会サミット

1 目 的

・各校の新生徒会役員が、相互理解を深めるとともにこれからの生徒会活動へのやる気と、守山市生徒会サミットの一員としての連帯感を生みだす。
・各校の生徒会活動を交流することで、互いに切磋琢磨し具体的活動への意欲を高める。
・今後の活動に向けての未来図を描く。

2 実施日時 令和4年 12 月 10 日（土）
　　場所：守山南中学校 多目的ホール

3 参 加 者 市内各中学生 生徒会役員 36 人
　　守山市青少年育成市民会議 8人
　　事務局 9人　 教育長および関係教員 4人　計 57 人

4 実施概要

まず、「先輩に学ぶ」と題し、生徒会サミットの前身であるクローバープロジェクトの時に活動していた高校生の先輩から、体験談を聞きました。勉強と部活動、生徒会活動との両立という、中学生ならではの大変さがある中で、みんなで協力して活動することの楽しさや、やり遂げた時の充実感など、活動を通して得られた喜びについてお話をいただいた。

その後、各校からの活動報告をもとに、グループ討議、全体協議を行った。各校からの活動報告では、日頃課題として感じていることも発表され、この発表を受け、市内みんなで取り組むべき課題や、今後の活動方針を討議した。今回も、青少年育成市民会議の皆さんにも参加いただき、日ごろ感じている大人の目線からも意見をいただいた。和気あいあいとした和やかな雰囲気の中、活発な議論が行われ、「交通マナー」や「スマホ」が課題として挙がった。

全体協議では、「このサミットは、もう6回目を迎えている。これからの私たちの時代では、先輩たちの取組を受け継ぐとともに、より困難なことに挑戦していってはどうか」という熱い思いが発表され、全員一致で「交通マナー」と「スマホSNS」に取り組んでいくことで合意形成を図った。

5 今後の活動について

(1)活動方針「交通マナー・スマホSNS」に取り組んでいく

(2)活動スローガン「六花繚乱　－Challenge everything－」

<参加生徒感想より>
○スライド発表が少しグダグダになってしまいましたが、何とか自分たちの思い通りに進められた。班のグループワークでは、みんながしっかりと話し合いに参加し、最後のスローガン発表の時もみんなで協力したりして、今回の生徒会サミットはすごく楽しく、自校の活動に活かしていきたいと思いました。

特別募金活動の実施

令和5年2月6日(月)午前10時頃(日本時間)、トルコ南東部を震源にマグニチュード 7.8 の地震が発生しました。守山市は、東京オリンピック・パラリンピックでトルコ共和国のホストタウンに登録されたのを機に、トルコ共和国の歴史・文化・芸術を学んだり交流を深めたりしてきました。

守山市生徒会として、何かできることはないかと考え、**「つなごう絆 届けよう私たちの思い」**を市内共通のスローガンとし、トルコとシリアの支援につながるよう、市内6校が協力して、すべての学校で募金活動に取り組むことを決め、街頭募金活動や校内募金活動に取り組みました。